

年頭のごあいさつ

横河電機健康保険組合
理事長 松井幹雄



新年明けましておめでとうございます。

事業主ならびに被保険者の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、当健康保険組合の事業運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、厚生労働省が発表した平成28年度の医療費動向によると、概算医療費は、14年ぶりに減少し、前年度から0.2兆円減の41.3兆円（前年度比-0.4%）となりました。伸び率のマイナス要因は、診療報酬改定の影響のほか、高額薬剤費の大幅な引き下げによる一時的な反動と考えられ、その後の平成29年度の医療費は高齢化の影響などにより、依然として増加傾向にあります。

一方、平成28年度決算見込における健康保険組合全体の状況を見ると拠出金の精算分（戻り）や診療報酬のマイナス改定等により支出の伸びは一時的に鈍化し、さらに短時間労働者の適用拡大等、被保険者数の大幅増により保険料収入が増加したことなどにより、平成28年度は2,373億円の経常黒字となりました。また、多くの健康保険組合が保険料率の引き上げを行っていることも黒字の要因となっています。現在、協会けんぽの平均保険料率（10%）以上の組合は、13組合増の304組合（全組合の21.7%）にもおよび、平均保険料率は9.110%、前年度比0.075ポイント増加していることからわかるように健保財政が根本的に改善されたわけではありません。平成29年度から後期高齢者支援金の算出方法が全面総報酬割になったことから今後健康保険組合の負担はますます重くなることが予想されます。

そのような環境の中、当健康保険組合の納付金・支援金も平成29年度予算ベースで保険料収入の48.3%を占め、現役世代の医療給付を含めると96.9%にもなります。そのように非常に厳しい状況ではありますが、当健康保険組合では、特定健診・特定保健指導をはじめ、人間ドック、生活習慣病健診などの疾病予防事業やスポーツクラブ利用補助、チャレンジウォーキングなどの健康維持・増進事業へも積極的に取り組んでまいりました。さらに事業主と連携して「メタボ予測分析」と「非メタボ（重症化予防）対策」を実施し、対象者の方にはその方の生活習慣改善に向けた専門職的確なアドバイスを記載した「アドバイスシート」を送付することで皆さまの健康に対する気づきを促し、生活習慣を見直す一助としてまいりました。

また、今回のけんぽだよりでもご報告していますが、平成28年度の特定健診・特定保健指導では、特定健診受診率84.6%、特定保健指導実施率48.9%と共に前年度実績よりも向上し、全国平均より高いレベルにあります。今年もこれまで以上に受診環境を整えてまいりますので、皆さまも疾病の早期発見のためにも積極的に受診されますようお願いいたします。

今年は健康保険組合と事業主が協力して、皆さまの健診データ・レセプトデータを分析・活用することで皆さまの疾病予防、重症化予防、健康増進、ひいては医療費の抑制を目指す「データヘルス計画」第2期の6か年計画策定の年になりますし、また、第3期特定健診・特定保健指導スタートの年になります。皆さまの健康づくり、ヘルスリテラシー向上のための保健事業を事業主と協働しながら積極的に推進してまいりますので、皆さまも一年に一度は必ず健診を受診することでご自身の健康を管理し、積極的に健康の維持・増進に努めると共に、引き続き健康保険組合の事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆さま方とご家族の方々の益々のご健勝をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

平成30年 元旦

